

## 審議会等の会議の記録

会議の名称	第2回 伊勢崎市自殺対策推進協議会
開催日時	令和5年10月26日(木) 午後1時30分～2時20分
開催場所	市役所本館5階職員研修室
出席者氏名	(委員) 鈴木康明委員長 大澤誠副委員長 島崎真一委員 樋口友幸委員 大和祥晃委員 小保方英雄委員 金嶋倫典委員 隅谷智委員 諏訪博昭委員 小池信人委員 岡部尚子委員
傍聴人数	—
会議の議題	(1) 第1回自殺対策推進協議会について (2) 第2次伊勢崎市自殺対策推進計画(案)について (3) 第2次伊勢崎市自殺対策推進計画策定スケジュール(案)について (4) その他
会議資料の内容	資料1 第1回自殺対策推進協議会での意見・課題・追加した支援策等 資料2 第2次伊勢崎市自殺対策推進計画(案) 資料3 伊勢崎市自殺対策推進計画策定スケジュール(案)
会議における議事の経過及び発言の要旨	<p>1. 開会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 第1回自殺対策推進協議会について 事務局 資料1について説明。</p> <p>【質疑・応答】</p> <p><b>委員</b> 前回の会議の内容を盛り込んでいただき、とてもよかったのではないかと思う。資料1について市のウェブサイトで県内の精神科と心療内科の医療機関リストを提供ということだが、市内のメンタルクリニックは予約が取れないところが多い。残念ながらメンタルクリニック、精神科・心療内科で医師会に所属しているところは1医療機関しかない。市が主体的になって輪番制を作るとなどしないと新患は1か月、2か月待ちになって実効的なものにならない気がする。</p> <p><b>議長</b> 市内のメンタルクリニック、心療内科・精神科との連携が簡単</p>

ではなかろうかということ、また、現実的に繋がりにくい状況がある。

事務局としても現実の問題定義ということで、受け止めていただけると誠にありがたいと思う。

#### 委員

精神医療センターが中心になって、市内のメンタルクリニック等との勉強会・連絡会は立ち上がっているののでそこに投げかけてみるのも一つかもしれない。

#### 委員

県のこころのオンライン相談@ぐんまというのがあるがどのような相談があったか等の報告があるといいと思う。うつ状態を早期発見するといっても予約しても言えない、相談できないとどんどん自殺の方向に行ってしまうのではないか。

相談対応した中で命の大切さを訴えた時に自殺をとどまった人がいるとか、そういったデータを載せていけば、ある程度理解が広まってくると思う。なかなか死のうとするのを止めるのも大変である。

#### 議長

とても大切な視点である。事例から学ぶという言葉はあるが、共有していくのは大事であるが現実はやっぱり相当難しい。

私は東京都の自殺対策委員を兼ねており電話相談を受ける側であるが何十件も話を聴く中で、人それぞれであり、相談内容は共有したいが、ハウツーもできないしマニュアルもできない。本当に一人ひとり様々で個別である事をデータとしていいのではないか。いかに難しいテーマであることを共有している。

質問に対して事務局にご意見いただけるか。

#### 事務局

自殺の相談というのは、色々な要因が重なっており本当に人それぞれで難しいところではあるが、事務局としては、生きることの促進要因を増やすことで自殺を防ぐということで、相談事業を充実させる事と、ゲートキーパーという、悩んでいる人に気づいて、声をかけて話を聴き必要な支援につなげるようなことができる社会となるよう、まず悩んでいる人に気づいて声をかけられるようなゲートキーパー的なかわりで話を親身になって聞くことができる人たちを社会に増やしていくような仕組みづくりをしていくことが必要だと考えている。

#### 議長

自殺したい、死んでしまいたい、ということは秘密中の秘密である。だから言わないが、どこかでわかってほしいといった時に、大人はつながろうとする、子供は相談もせずに自殺に向いてしまうことがある。苦しくて知られたくないけれども、わかってほしいという事を周囲の私たちがどれだけ汲み取っていくかというかなりの難しさがある。いただいた意見を事務局として受け取ってもらったのでよろしくお願ひしたい。

**委員**

資料1について自傷行為のところで統計はとられていないというのは、精神医療センターにおいて統計がとられていないということによいか。

**事務局**

精神医療センターの方に意見を頂いた時に精神医療センターにおいて統計がとられていないということでその表現となっている。

**委員**

資料1について現場の感覚に基づいたフォローアップ制度の構築が必要という点について、23条通報で入院にならない場合は、ご家族等への引き渡しということになるが、家族へ後日受診をすすめた時に予約ができないことがあるとそのタイムロスが自殺へのリスクが高まってしまう要因の一つではないかと思われるので、理想論にはなるが、もし入院にならなくてもその後伊勢崎市独自で早めに診察と相談等につなげられる制度があればいいと思う。

**議長**

伊勢崎市独自のという言葉を受けている。未遂者支援というものは課題中の課題ということもある。

今のこの意見に対して何か意見をいただけるか。

**事務局**

自殺未遂者支援というところは、伊勢崎市では実際には行われてはいないが、県の自殺対策の担当者会議に7月に出席した際の情報では自殺未遂者支援の仕組みは、県内でも進んでおらず太田市でモデル事業ということで、取り組みを始めるという情報を聞いている。未遂をされた方の本人や家族の同意を頂いたくという難しい内容ではあるが県内のモデル事業の取り組みなども参考にしていきたい。

**議長**

ほかに質問や意見があるか。

**委員**

市のホームページの中で、健康づくり課のこころの健康相談の部分を開くと日程が出ていてお問い合わせくださいとなっている。自分の職場で未治療の方の相談を受けることがある。こころの相談の窓口を紹介する際に相談する窓口が分かりやすいチラシがあるとよい。また、伊勢崎保健福祉事務所の相談窓口があるが、そちらの案内が市のホームページには掲載がなかったりするので、周知に工夫してもらえるといいかと思う。

**議長**

周知をしても市民や関係者が分かりにくいとなれば必要な内容が一人ひとりの市民に届いていないという事になる。情報の

共有のあり方について、事務局いかがか。

**事務局**

こころの相談は、広報の16日号に毎月保健福祉事務所での相談と市で行っている相談の日程などは相談月の前の月の16日号に掲載しているが、ホームページには、保健福祉事務所の日程は掲載されていないので、掲載を加えさせていただく。紙でのチラシの配布については、保健センターを中心に紙ベースで配布している。配布先も今後検討したい。

**委員**

市のホームページにチラシを張り付けてもらうと必要な方にこちらでもすぐに印刷できて渡せると思う。

**事務局**

日程は掲載しているが、ホームページにチラシを添付していないので添付したい。周知については早速取り組みたい。

**議長**

コミュニケーションツール等情報の取り方は多様な時代となり、年代によっては新聞を読まず、文字から相当離れていると思われる。情報はSNS等かなり細分化がされているが、紙媒体が廃れるということはないと思う。周知の工夫が今後も必要なことだと思う。

**(2) 第2次伊勢崎市自殺対策推進計画(案)について**

**事務局** 資料2について説明

**【質疑・応答】**

**委員**

資料2ページの自殺のイメージ図からもあるように自殺に至るプロセスは、自殺した人の場合の色々な要因を遡って事例を何例も積み重ねてこの図ができています。自殺対策は様々な事業があって、様々な課が対応をしており自殺対策の推進体制は47ページの図にも示されているが、市民にとっては、どこの課がどこの団体かは関係ない。どこに持っていけばそのネットワークをうまく利用してくれるかが大事だと思う。そういう意味で市民に身近な存在は、一つは民生委員があると思う。そしてもう一つは、地域包括支援センターだと思う。市から委託を受けている地域包括支援センターの事例として、関わっていた高齢者の子が実は精神疾患を持っていた、更に孫が不登校を起こし始めたという事があるとする。高齢者とその家族の課題を含めて対応していかなければならない。地域包括支援センターという存在が、高齢者を対象とするところからもっと拡大した対象に関われるようにするという事を是非伊勢崎市も独自のやり方として考えていただいて、その辺をご検討いただけると良い。

**議長**

民生委員の活用、包括支援センター関係でご意見をいただいている。今のご意見はワンストップで窓口を一本化ということなる

がこの点について事務局としての意見はいかがか。

**事務局**

前回から地域包括支援センターの活用についてお話しいただいているところである。現状は高齢者に関することは市役所だと地域包括センターということになる。相談を受けて色々な方や課が関わっているという部分での連携は現在でもしているが、ワンストップの窓口を設けることについては、どういう人材を置いたらいいか、各課が連携しながら、どのようにワンストップに近い形に体制が組めるか、という検討は庁内の方で進めてまいりたい。

**議長**

自殺対策は国が動き、群馬県が動き、伊勢崎市が動いてそれぞれの関わりの中でこういった形で参集しているわけであるが、各自治体でそれぞれの特質があると思われる。先ほどの委員からの意見を頂いて、伊勢崎モデルのような感じで、伊勢崎はワンストップを作るといふような、そういう体制の中で動いてくようなことをやることはやぶさかでないと思う。国や県の言いなりではなく独自性ということでも考えていくよう、今すぐではないが視点に置いておかれるとありがたい。困っている人がありがたいのではないか。

**(3) 第2次伊勢崎市自殺対策推進計画策定スケジュール(案)について**

**事務局** 資料3について説明

**【質疑・応答】**

なし

4. その他  
特になし

5. 閉会